

平成25年第4回燕市議会定例会

一般質問日程表

質 問 日		質 問 者			質 問 方 式	
					一括質問	一問一答
12月10日 (火)	午前	1	大原 伊一 議員	○		
	午後	2	渡邊 雄三 議員	○		
		3	本多 了一 議員	○		
		4	樋浦 恵美 議員	○		
11日(水)	午前	5	埜 豊 議員		○	
		6	中島 義和 議員	○		
	午後	7	齋藤 信行 議員	○		
		8	渡邊 広宣 議員		○	
		9	小林 由明 議員		○	
		10	土田 昇 議員		○	
12日(木)	午前	11	山崎 雅男 議員		○	
		12	中山 眞二 議員		○	
	午後	13	長井由喜雄 議員		○	
		14	タナカ・キン 議員		○	
		15	齋藤紀美江 議員		○	
13日(金)	午前	16	阿部 健二 議員	○		
		17	大岩 勉 議員		○	

平成25年第4回燕市議会定例会「一般質問表」

発言の順序	発 言 する 議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小項目)
1	大原 伊一	1. 市長の政治姿勢について	(1) 日本一輝いているまちを公約にして就任以来3年8ヶ月が過ぎ、市長の自己評価について	<p>①市長就任以来、精力的に活動されていたようであるが、上手くいった政策、思い通りに成果の現れなかった政策等、市長自身の自己評価を伺う。</p> <p>②アベノミクスにより本市産業も一部で持ち直しの状況が見受けられるが、全体としてはまだまだ景気が良い状態でないと思われる。 今後の産業振興に必要な政策、T P P問題を抱える農業に対する政策、シャッター街となりつつある商店街に対する政策等、いかにビジネスチャンスを見逃さない政策を実現し産業の発展をリードしていくのか、市長の考えを伺う。</p> <p>③特例債事業も終盤戦となり、今後は借金返済のために財政が逼迫していくことが想定されるが、財政運営の方針を伺う。</p>
			(2) 市長の今後の政治活動について	<p>①来年4月には、新市となって3回目の市長選があるが、市長は再度立候補されるのか伺う。</p> <p>②来年度予算編成は、鈴木市政で行うのか、骨格予算とするのか伺う。</p>
		2. 農業政策について	(1) T P P に対する本市独自の対策について	<p>①T P Pの交渉内容がベールに包まれており、コメントを出しづらいものがあると思われるが、いずれ農産物全て自由化の荒波を受けて立つ時が訪れると思われる。いざ自由化になった時、今までのように政府の方針に基づき対処したいなどと言っていると、本市農業が壊滅してからでは意味をなさない。 本市農業の方向性は、全国一律の金太郎飴方式を取り入れては生き残れないものと考えているが、本市農業の独自性の方策について伺う。</p>
			(2) 今年の農産物全体の作況状況について	<p>①地球温暖化の影響で農作物の管理による格差が生じているが、市内農業の作況状況、販売状況などを伺う。</p>
			(3) 農業の実態について	<p>①合併時と現在の農家数と平均年齢および出荷額、並びに合併後の新規就農者を年別に伺う。</p> <p>②以上のことから、農業形態がどの様になって来たのか、今後どのように変わっていくと想定しているのか伺う。</p>

発言の順序	発する議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
2	渡邊雄三	1. 交通安全対策について	(1) 高齢者運転免許証の自主返納支援について	<p>①全国的に高齢者運転免許証自主返納を支援するさまざまな取り組みが広がっている。県内においても、多くの自治体で実施している。</p> <p>事故防止や高齢者が加害者にならないよう事故予防の観点から、本市においても返納しやすい環境整備として、高齢者運転免許証自主返納支援事業を検討していただきたいがいかがか。</p>
			(2) 通学路の安全対策について	<p>①25年第一回定例議会の通学路安全対策の質問に対する答弁で、教育委員会と関係機関とで100か所ある危険箇所すべてを確認し、協議を重ねて対応し、8割程度対策を講じ、残りの2割は改善に時間がかかるとあった。現在はどうのように改善が進んでいるのか伺う。</p> <p>②桜町第一踏切付近の通学路安全対策の対応については、保護者や地域の方への立哨指導の協力依頼等、引き続き行っているとあったが具体的にどのように改善されたか伺う。</p> <p>③冬期間の通学路の除雪対策はどうなっているのか伺う。</p>
		2. 小中学校校舎施設整備について	(1) 小学校のトイレ改修について	<p>①私たちの生まれ育った時代は、トイレは水洗なしの和式しかなく、時代が変わり生活習慣の変遷から、今では生まれた時から水洗トイレで、しかも洋式トイレで育った子供が多いのが実態であると思う。学校の耐震化と共に、災害時の避難場所としての施設機能の強化という面からも、多目的トイレの設置、トイレの洋式化を含めたバリアフリーに対応したトイレの環境整備の必要性を感じます。</p> <p>そこで、小中学校におけるトイレの洋式化はどうなっているのか伺う。</p> <p>②災害時の避難場所であるということを踏まえて、バリアフリー化と共に多目的トイレの設置計画について伺う。</p>
			(2) 小学校敷地内の駐車場整備について	<p>①燕西小学校で、学校行事開催時、周辺道路に駐車している車両が多く見受けられる。近隣等に迷惑をかけているのではと推察するが、駐車スペース確保が必要と思うが、現状はどうなのか。また、他の小学校の職員の駐車場及び緊急時の道路確保は、どうなっているのか伺う。</p>
		3. 市役所周辺及び業務について	(1) 市役所市民サービスについて	<p>①市役所が開庁して約7カ月が経過したが、いろいろな課題も浮き彫りになり改善もされてきている。</p> <p>市役所に来る多くの皆さんが東口南北両出入口より入庁しているが、総合窓口を設置することにより、来られた方が安心して目的の窓口へ進めると思います。総合窓口の設置をすることで、市民サービスの向上に大きく寄与していくと思うがいかがか。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
2	渡邊雄三			②分水サービスコーナー、燕サービスコーナーが設けられているが、5月からの利用者の推移と人件費等年間の経費はどのようになっているのか伺う。
			(2) 市役所出入口周辺について	①冬季、日没が早くなり閉庁時間前でも庁舎内、駐車場が暗いと思う。安心・安全のためにも、改善が必要と思うがいかがか。 ②庁舎西側出入口付近の防風雪、路面凍結に対する来庁者の安全対策はどのように考えているのか伺う。
		4. 地域防災について	(1) 3地域の避難訓練が終わったの課題について	①燕、吉田、分水地域の避難訓練が終了し、実際に避難訓練を実施して良かったこと、見えてきた課題、今後の安心・安全なまちづくりを構築していくうえでどのような思いを感じたのか。また、今後の予定について伺う。 ②人口に対して何パーセントくらいの住民が参加されたのか伺う。 ③3カ所の避難訓練を通じて、住民の意識はどのように変わってきたのか伺う。
3	本多了一	1. 市長の政治姿勢について	(1) 消費税増税が決められた感想について	①9月議会で市長が心配された中小企業の実態など全く度外視して、安倍首相は5%から8%に引き上げることに踏み切ったことに対する感想を伺う。
			(2) 消費税引き上げに伴う社会保障について	①安倍内閣が国の社会保障費の削減を叫び、医療・年金・介護・生活保護などの分野で制度の切り捨てを進めようとしている。 介護保険では要介護認定で「要支援1」・「要支援2」と認定された人にヘルパーによる生活援助サービスを受けさせなくするというが、軽度者こそ、予防のためきめ細かな支援が必要なのに、「国は何をを考えているのか」と市長は思わないか伺う。 ②介護保険利用者の負担増、収入が一定額を超える人の利用料を2割にするとか、収入の少ない人が介護施設に入所した場合、食事・部屋代の「補足給付」があるが、貯金や資産があると認定した人の補助を打ち切ることが検討されているが、市長の感想を伺う。 ③「要介護1」・「要介護2」の人を特別養護老人ホームに入所できなくすることが進められようとしている。このことについて、市長の感想を伺う。 ④70歳から74歳までの人の医療費の自己負担を1割から2割にするという問題。燕市では70歳から74歳までの国保加入者が3,954人いる。これらの人達の負担が大きくなることについて、市民のいのち、くらしを守る立場の市長から、これは大変なことだという認識になってもらいたいと思うがいかがか。

(次ページへ続く)

発言の順序	発する議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
3	本多 了一			<p>⑤年金の削減は今年の10月分を1.0%削減、今後3年かけて2.5%の支給を削減することが決まっている。さらに「マクロ経済スライド」という年金制度を拡大して、年金支給を恒久的に減らし続けることや、年金受取り年齢を「68歳」「70歳」に先送りすることも検討されている。</p> <p>まさに社会福祉の改悪だと思うが、市長は年金引き下げについて、どのような見解をもっているか伺う。</p> <p>⑥生活保護は今年の8月から保護費の削減が行われ、さらに保護申請のハードルを高くして、保護申請の「門前払い」を強化する法律の改定が用意されている。</p> <p>このような弱者いじめの政治が、燕市を通して市民に覆いかぶさって来ることに対して、市民の立場に立ってその防波堤になることが、市長に求められる政治姿勢でないかと思うが、市長の見解を伺う。</p>
4	樋浦 恵美	1. 教育環境の整備について	(1) 奨学金制度の拡充について	<p>①奨学金は能力がありながら、経済的な理由で就学が困難な学生へ金銭の貸与を行うことで就学を促す制度である。厳しい経済状況が家計を直撃し、学生生活を支える奨学金制度の果たす役割は、一段と高まっている。燕市では、普通奨学金として月額4万円、特別奨学金として月額7万円を貸与しているが、奨学金制度のこれまでの申込状況と採用状況について伺う。</p> <p>②燕市では、他の奨学金との併用ができないため、保護者の方から「併用できるようにしてほしい」という声を聞いている。</p> <p>また、申込期間が4月1日から4月30日となっているが、この点について協議はされてきたのか伺う。</p> <p>③入学時の経済的負担を軽減するため、奨学金の支給方法の見直しが必要であると思うが、今後はどのように考えていくのか伺う。</p>
			(2) 子どもの生命を守る対策について	<p>①子どもが安心して学校生活を送るためには、子どもの安全を見守る体制の整備を図っていくことが重要である。学校で児童・生徒が病気やけが、アレルギー症状などで救急搬送された事例はあるのか。またその場合、どう対応されたのか伺う。</p> <p>②救命のためには、正確な観察と情報、ポイントを絞った的確な報告が大切である。群馬県渋川市では、園児や児童生徒の救命救急を円滑に行うため、「子ども安心カード」を導入している。既往歴やアレルギー症状の有無を記したもので、保護者の同意を得て学校や園に保管し、緊急事態が起きた場合に救急隊に引き継ぐものである。一刻を争う時のやり取りに非常に有効であると思うが、市の考えを伺う。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
4	樋浦 恵美	2. 保健事業について	(1) 子どもを対象としたインフルエンザ予防接種費用について	<p>①燕市では、生後6カ月から小学校6年生までの子どもを対象に、予防接種費用のうち、1,000円を1人1回限り補助している。予防接種の効果を高めるためには、13歳未満の子どもの場合、2回の接種が必要である。子どもの多い家庭などでは大きな経済負担となっているが、補助回数を2回にすることはできないか伺う。</p> <p>②対象年齢は小学6年生までとしているが、インフルエンザが流行する時期が受験シーズンであることから、中学3年生を対象に助成している自治体もある。助成の対象を中学3年生まで拡充することはできないか、考えを伺う。</p>
5	埴 豊 (一問一答方式)	1. 燕市の財政状況について	(1) 来年度予算編成について	<p>①国の交付税の状況について</p> <p>②来年度予定される大規模事業について</p>
			(2) 来年度以降の課題について	<p>①交付税の一本算定について</p> <p>②人口減少と交付税について</p> <p>③予測される状況への対処法について</p>
		2. 教育問題について	(1) 学力向上について	<p>①教育委員会と教育現場の乖離について</p> <p>②知、徳、体のバランスについて</p> <p>③部活動の対応について</p> <p>④教育先進地と燕市の開きについて</p>
6	中島 義和	1. 農政について	(1) TPP参加について	<p>①2010年当時の菅総理が国を開くと表明、2013年3月安倍内閣が交渉参加を表明、アメリカなど11カ国の承認を経て日本は7月に正式参加した。安倍内閣は年内妥結に向け、日本が主導的役割を果たしていくべきと表明。11月16日の代表質問では「公約は違えてはならない、守るべきは守り、攻めるべきものは攻め、国益を追求する」と答弁されている中、県は政府に対しTPP協定への対応について、食料・安全保障の観点から、主食用の米は関税撤廃の対象から除外し、ミニマムアクセス拡大や低関税輸入枠の設定などいかなる譲歩も行わないこと。TPP協定のメリット、デメリットを明らかにして、国民に出来るだけ早く説明するよう改めて要望した。</p> <p>市民も不安のなかTPP交渉を見つめているが、保秘契約を理由にマスコミから断片的にしか伝わってこない現状を、どのように認識されているのか伺う。</p>
			(2) 農地維持の新交付金について	<p>①40年余り続けられて来た米の生産調整、いわゆる減反政策が5年後2018年廃止が正式決定した。減反政策に参加して受けていた定額補助金半減となったが、昨年度と同様の場合の影響額はいくらになるか伺う。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発する議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
6	中島 義和			<p>②日本型直接支払いで現行の中山間地域等直接支払い、環境保全型農業直接支援は、基本的枠組みは維持となっているが、農地維持支払い、資源向上支払い 10 a の金額はどのようになっていくのか伺う。</p> <p>③生産調整廃止に向け飼料米、こめ粉米、加工米への誘導が金銭面で現れているが、燕地域の振興作物として米の他に J A、生産者団体とどのような協議がなされているのか伺う。</p>
		2. 助成金について	(1) 住宅リフォームについて	<p>①現在、消費税導入前の駆け込み需要で仕事量は確保されているが、消費税増税後の需要減少は目に見えており、中央でいわれている景気回復の実態は地場では見えてこない。</p> <p>緊急経済対策として、市内に主たる事業所を有する建築関連業者の工事受注の機会を増進するため、市内の業者によって個人住宅リフォーム工事を行うものに対して予算の範囲内で助成金を支給する事業であるが、25年度3千万円予算のところ、募集開始2カ月で予算枠に達した。</p> <p>抽選にもれた市民から、26年度も継続事業にとの要望が出ているが、新年度予算で対処していただけないか伺う。</p>
			(2) 定住促進 まちなか支援事業について	<p>①24年度新規事業として取組みがされたが、定住割合及び年齢割合はどうか伺う。</p> <p>②25年度も残すところ3カ月弱となった。検討中も含めて、これまでの実績を伺う。</p> <p>③市外からの転入、市内での転居があるのと同じく、市外への転出もあるが、現状の実態はどうか伺う。</p>
		3. こども達の安心安全対策について	(1) 渋川市こども安心カードについて	<p>①群馬県渋川市教育委員会が6月に導入した「こども安心カード」事業が注目を集めており、行政視察で現地に行って研修してきました。</p> <p>ご承知のように東京都調布市の小学校で昨年12月、食物アレルギーのある女兒が給食後に死亡する事故が発生しました。これを受けて渋川市教育委員会は、消防と協議を重ね連携を強化し、アレルギー対策のみではなく、事故やケガ、急病等の緊急時対応に備えプライバシーを守りながら「安心カード」を作成した。</p> <p>この「安心カード」の使用、活用をどのように評価されるか伺う。</p> <p>②燕市でも保育園、小学校では毎日「おたより帳」の交換で体調管理を行っているが、もう一步踏み出し「安心カード」作成、活用を検討していただきたいと思うが考えを伺う。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発言者	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
6	中島 義和	4. まつり花火について	(1) 打ち上げ会場について	<p>①昨年JR越後線吉田駅開通100周年記念イベントとして「吉田ふれあい広場」で花火打ち上げが実施された。今年は吉田諏訪神社の祭礼に併せ、市民からの浄財を募り商工会有志主催のもと、花火打ち上げが実施され、大勢の市民が一夜を堪能した。 新燕市誕生後、分水地内で実施されてきた花火打ち上げを移転できないか伺う。</p> <p>②警察、消防団、地域関係者及び実施予定地の関係地権者の理解と協力を得ながら、実現に向け努力していただきたいと思うが考えを伺う。</p>
7	齋藤 信行	1. 除雪計画について	(1) 平成24年度の反省を踏まえ平成25年度の目標について	<p>①平成25年度除雪計画は、消雪パイプ等の消融雪施設を有効に利用し、機械除雪を主体に国・県道除雪との連携のもとで効率の高い除雪を目標とするところがあるが、平成24年度の市民の苦情・委託業者の意見等、どのように活かされたのか伺う。</p> <p>②歩道については、冬期歩行者の安全を確保するため通学路を中心とした歩道除雪を実施するとあるが、平成24年度より2.0kmが学童通学路除雪要望等により路線追加となっている。 今年度歩道用除雪機械の塔乗式が11台から14台に増えているが、歩道の除雪の場合、吹雪などですぐに塞がったりする。その対応について市民の苦情などもあったのか、また機械が増えて対応できるのか伺う。</p> <p>③除雪計画路線について、市民の要望・委託業者の意見等どのように活かされたのか伺う。</p> <p>④他市・村の相互乗入れについて伺う。</p>
		2. 観光事業について	(1) おいらん道中について	<p>①おいらん道中は、前夜祭の実施や雨の時の対応など、今年度と来年度では違いがあるのか。</p> <p>②つばめるしえ等、初めての事業もあったが、今年度は雨だったので、反省も踏まえ来年度についての考えを伺う。</p> <p>③例えばアイディアとして、ぬいぐるみのきららんとヤクルトスワローズのつば九郎との共演など、いろんなアイディアもあると思うが、来年度に向けてのアイディアはあるのか伺う。</p> <p>④他市・村との連携について伺う。</p>
		3. 新庁舎及びサービスコーナーの職員の対応について	(1) お年寄りの対応について	<p>①新庁舎になり、お年寄りの方々は役所が遠くなったりして大変だといった話をよく聞くが、どのような苦情があったのか伺う。</p> <p>②本人確認について、お年寄りの場合、免許証など無く、保険証などを忘れた場合、徒歩・自転車で行った場合大変である。そこで診察券など他の物、または職員がその人を知っているのであればよいのではないかなどいろんな話があるが、職員の対応はどのようにしているのか伺う。</p>
			(2) 市民全体について	<p>①新庁舎になって、市民全体についてどのような苦情があったのか伺う。</p>

発言の順序	発する議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
8	渡邊 広宣 (一問一答方式)	1. 政治姿勢 について	(1) 市長就任以来、燕市の現況認識について	①燕市の現状をどう分析しているか伺う。 ②今後の燕市に何が必要か、また、目指すべき近未来像をどう描いているのか伺う。
			(2) 2期目に向けて目指すべき施策について	①来年4月に予定される市長選挙について伺う。 市長に与えられた任期は4年であり、その任期内で施策の完結がみられ、その成果が上がれば継続されるものと認識している。1期目におけるその自己検証を伺う。 ②平成26年度予算は、再選に向けて公約を具現化した予算になるものと思う。選挙戦になれば、市民にアピールする予算でもある。その重点施策について伺う。
			(3) 地方自治体の首長としての政治判断について	①中学卒業までの子ども医療費助成の見直しを考えているのか伺う。 ②国保会計に一般会計からの法定外繰り入れについて、再度考え方を伺う。 ③行政サービスに所得制限を設けるべきと考えるが、それぞれ市長の考えを伺う。
		2. 教育行政 について	(1) 教育長の考える燕市の教育像について	①教育長の考える理想の教育像、教育観を伺う。 ②燕市の児童・生徒の学力、学習態度の認識と他自治体に比較してどう捉えているか伺う。 ③教育に力を入れることは、一方で地方にとって弊害、反動もあると思うが、教育長の考えを伺う。 ④児童クラブ、学校図書館など学校附属施設の今後の在り方、計画について伺う。 ⑤統廃合により廃止された土地・建物の基本的活用について伺う。
9	小林 由明 (一問一答方式)	1. 未来にかける市の姿勢について	(1) つばめの未来戦略について	①つばめ若者会議事業、みらい起業塾、みらい産業PJ、成長産業参入支援、販路開拓事業、定住促進事業、ジャック&ベティ事業等々、燕市の輝く未来を実現する取り組みが形になってきたと考えている。 これらの取り組みは単年度で終了ではなく、継続性を持って取り組むことが必要と考えるが、今後の展望を伺う。 ②これら事業を一体的に捉え、相互連携を図るなど、一体的な視点を持って運用を図って行くべきと思うが考えを伺う。 ③輝く未来を築かんとする燕市の果敢な姿勢を、市内外へ積極的にアピールして行くべきと思うがいかがか。 ④若い方の活動を応援する風土を醸成すべきと思うが、若い方の活動にスポットを当てて、HPなどで市内外に向けその活動を紹介していくべきではないか。

(次ページへ続く)

発言の順序	発する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
9	小林由明 (一問一答方式)		(2) つばめ若者会議について	<p>①つばめ若者会議の未来像、理念を伺う。</p> <p>②市の事業から離れて自主運営に移行していくものと考えているが、それまでに市は何をなすべきと考えているか。また、何ができると考えているか。</p> <p>③20年後の燕市を考えて行く中で、つばめ若者会議メンバーは燕市に存在する様々な課題に直面して行くと思うが、それら課題の解決に彼らのアイデアや行動力を活かせる機会が多いと考えている。彼らの力をどのように発揮させていくか伺う。</p> <p>④燕市は、南魚沼市、南陽市、新発田市など他自治体との連携事業に取り組んできているが、平時における交流事業の中で、つばめ若者会議メンバーとそれら自治体の若者との交流会などを企画出来ないか。また、市内外さまざまな団体とのつながりを持てるよう、取り組むべきではないか。</p>
		2. 食を通じたまちおこしについて	(1) 商農工連携について	<p>①「包括的食のまち」といえる燕市にあって、まちの活性化に、食を通じた取り組みは欠かせないと考えているが、市はどのように考えているか伺う。</p> <p>②商農工連携に果たす市の役割を、どのように考えているか。</p> <p>③生産者や飲食店、食器、厨房機器等製造販売業者などを巻き込んだ、食に関するイベントの開催について、どのような考えをもっているか。</p>
			(2) 「美味しいつばめプロジェクト」新たな名物づくり、名物の掘り起こしについて	<p>①燕ラーメンが全国的にも有名になっており、市でも産業の歴史と絡めてそのアピールを積極的に行っている。吉田でも、地域で親しまれソウルフードと呼ばれる「鶏肉のレモン和え」のアピールを地域の若手が取り組んでいる。</p> <p>新たな名物として、燕ラーメン同様、市としても積極的な応援をしていくべきではないか。</p> <p>②燕弥彦観光ナビの燕うま逸品への、市内の飲食業者、生産者等の登録を推進し、名物の掘り起こしに努めていただきたいかがか。</p>
		3. 子どもたちの安心安全について	(1) 通学路の安心安全の確保について	<p>①市内には、車両通行量が多いにも関わらず、歩道が狭隘なため、自転車、歩行者等が車両と近接して横断しなければならない。事故がいつ発生してもおかしくない極めて危険な踏切りがある。</p> <p>踏切りの改造には、多額の費用やその他の対応に極めて大きな負担が発生すると聞いているが、特に緊急対策踏切に指定されている3カ所の踏切りについて、危険解消のためにどのように取り組んでいくか伺う。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発する議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
9	小林由明 (一問一答方式)	4. 委託業務の点検・評価・指導について	(1) 委託業務の質の向上について	①先般の9月議会において、「市は発注業務について、点検・評価・指導などを行っているか。」との問いに対して、「各種基準にもとづき、適宜確認、評価、改善要望、指導等を行い、契約の適正な履行に努めている」との答弁であったが、その効果をより向上させるためにどのような取り組みが必要か伺う。 ②委託業務の質の向上に、住民の声をどのように反映させているのか。
		5. 市民に信頼される市役所を目指して	(1) 職員の倫理観向上について	①職員の倫理観向上の取り組みについて、市はどの程度の重要性を感じているのか伺う。 ②倫理観向上の実現のために、こういった取り組みを行っているか。 ③先般の職員の不祥事発生後、どのような取り組みを行ったか伺う。
10	土田昇 (一問一答方式)	1. 農業問題について	(1) TPP交渉に参加しての問題点について	①新聞で毎日のように報道されている農業問題。特に環太平洋連携協定(TPP)について重大なことは、米の生産調整の廃止見直しがTPPに参加することで、外国産米の輸入が増えることを見越した措置であると報道されている。 重要5品目(コメ、麦、牛・豚肉、乳製品、サトウキビ)が全部守れないのであれば、日本の農業を壊滅させるTPP交渉から撤退すべきと考える。 兼業農家であれ、専業農家であれ、意欲のある農家が安心して米づくりができる環境を保障することが、JAや行政が今しっかりと対応することが強く求められると思うが、市長の見解について伺う。
			(2) 生産調整(減反)廃止の認識について	①減反を廃止すれば米価が大暴落して、兼業農家や専業農家でも離農する方向に進んで行くと思う。そうなれば、農家の規模拡大が進んで行くと思っているかもしれないが、米価の下落で最も打撃を受けるのは、現在の米価水準を前提とした大規模経営や法人組織。さらに集落営農等々を含めた方々は農業機械などに投資して大規模化した多くの経営者がこれまでの米価水準に助成金と併せて成り立ってきたのが現状だと思う。その点については、今よりも厳しい状況になってくる可能性は十分にあると思うが、その点についての見解を伺う。
			(3) 転作補助金の対応について	①転作補助金は、特に飼料米の増産を重視して14年度から拡充としている。飼料米の収穫量が平均を上回れば、支給額を現在の10a当り8万円から増やし、平均を下回れば減らす方針で、支給額の上限は10万5千円、下限は5万5千円。 作付等に関しては、農家の自主判断なのか、JAや行政指導で行っていくのか伺う。また、飼料米の平均とはどれくらいの収量か、また品種はどのようなのか伺う。 (次ページへ続く)

発言の順序	発言者	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
10	土田 昇 (一問一答方式)		(4) 用水、排水の管理について	①用水の管理、排水路の管理、農道の管理等々については、地域の共同作業が不可欠と考える。減反問題で離農者が出た場合、大規模経営者だけでは不可能と思う。10月31日付けの新潟日報の報道で、補助金を大規模農家に限定するアンケートに市長は賛否を保留しているが、現在の認識について伺う。
			(5) 米の消費拡大について	①減反が廃止されれば、個々の農家は準産地や産直販売に努力すると思う。また、市の既存の施設や団体等に米の販売を今後は考えていく時期にきていると思うが、市長の見解について伺う。(長野県阿南町を参考に伺う。)
11	山崎 雅男 (一問一答方式)	1. 排水対策について	(1) 須頃郷排水対策事業等について	①急激な宅地等の開発により、従来農地であった井土巻、須頃郷地区の水害対策の重要性。地表面が建物やアスファルト舗装に覆われ、土地利用変化に伴い浸水・冠水被害を減少するため、須頃郷排水対策事業の進捗状況と本市における雨水対策に対する取り組みについて伺う。 ②局地的な短時間豪雨は、降雨量の予測は難しいことと思う。須頃郷地区を含め中心市街地において、排水施設等の整備水準を超えての集中豪雨。降雨時からの道路冠水、河川の増水による中之口川放流停止等で住宅への浸水までの時間が短いのが特徴である。 下水道による排水対策と河川整備との連携が不可欠であり、自治体にとって重要政策のひとつであるが、快適な住みよい燕市にするためには、どのように市民の安全を守るのか伺う。
		2. 公園整備事業について	(1) 緊急災害時に備えた(仮称)東町公園整備事業について	①防災機能を兼ね備えた(仮称)東町公園整備の取り組み状況とどのような整備設備であるか具体的に伺う。 ②防災機能を兼ね備えた都市公園の(仮称)東町公園整備は行政主導の施設ではなく、市民・地域住民も巻き込み災害の危機意識を共に高めることに意義がある。最初から市民、住民が関わることにより、完成後、公園に愛着を感じ有意義に活用する考えが芽生えるのではないか。 広域的な観点から整備を進めて行くことと思われるが、燕市民や地域住民との協議は取り込まれているのか伺う。
		3. 旧3庁舎の利活用について	(1) 市民の声を反映することについて	①過日、旧3庁舎の利活用について行政指導の方向性を示す説明が行われたが、現状の取り組み状況を伺う。 ②10,351㎡(3,131坪)の広大な敷地の中にある旧吉田庁舎は、地域の方々にとっても市街地に残された貴重な公共空間である。地元吉田地域はもとより、燕市民としては、地域公共のために文教施設としての燕中央図書館として有効に利活用してほしいと市民の強い声が多く寄せられているが見解を伺う。 ③燕・分水サービスコーナーの市民の利用状況を伺う。 (次ページへ続く)

発言の順序	発する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)	
11	山崎 雅男 (一問一答方式)	4. 旧保養施設「たのうら燕」について	(1) 「たのうら燕」の売却について	①平成21年1月に「たのうら燕」の土地8,818㎡と建物1,396㎡を含めた予定最低価格9,270万円。平成21年4月に7,268万円。平成22年に3,849万円。平成23年に予定価格、建物ゼロ円で781万円。3,068万円減の減額率79.7%とはいえ、建物取り壊し費用2,396万5,000円、アスベスト除去費用555万5,000円で2,952万円のたのうら燕である。 今年度に入り問い合わせや現地確認の申し出があり検討している事業所があると前回答弁されたが、その後の売却に向けての進捗状況はどうか伺う。 ②「たのうら燕」の地下埋設灯油タンク撤去工事内容を伺う。	
12	中山 眞二 (一問一答方式)	1. 指定管理者制度について	(1) 指定管理者選考等委員会について	①指定管理者制度の重要性から鑑み、報酬は低すぎないか。 ②職務権限はどのようになっているのか。 ③選定後の管理体制と選考委員の関係はどのようになっているのか。	
			(2) 指定管理者に対する指導・監査について	①過去にどのような指導や監査を行ってきたのか。 ②市民等の苦情があった場合の対処はどうしているのか。 ③各指定管理された施設に管理者の名前や連絡先、管理状況を明記すべきと思うがいかがか。 ④管理形態や管理状況の閲覧が、簡単に自由にできる方法が必要ではないのか。	
		2. 水道事業について	(1) 老朽化してきた浄水場の今後について	①浄水場の償却期間(寿命)と燕市の浄水場の現状と将来の計画はどのようになっているのか。 ②浄水場の更新に対する資金はどのように考えているのか。 ③実質的な経営内容はどのようなのか。 ④料金体系と基金はどのように考えているのか。 ⑤浄水と下水は密接に関係しているが、公共下水の接続率を上げるために、工事規定の緩和は考えられないか。	
			3. 新市建設計画について	(1) 新庁舎について	①半年間使ってみての反省点と市民の庁舎に対する反応はどうか。 ②使い勝手の悪いところは、すぐ手直しを考えるべきではなからうか。
				(2) 広場の活用について	①広大な広場を利用して燕独自の季節の産業祭りを開催してはどうか。
				(3) 庁舎へつながる道路整備の遅れについて	①庁舎へのアクセス道路である、吉田88・384号線の整備が遅れているようだが、その理由は何か。
		(4) 合併特例債事業について	①全体計画の進捗度と今後計画の変更はあるのか。		

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
12	中山 眞二 (一問一答方式)	4. 基金について	(1) 非営利法人の委託金・補助金と基金について	①非営利法人や指定管理を受けた法人が利益を積み上げた場合、多くは基金として積み上げるが、委託料・補助金との関係をどのように考えるのか。
			(2) 燕市の持つ基金について	①市の持つ基金は多ければ財政の安定につながるが、市民サービスとの関係をどのように考えるか。
		5. 職員の懲戒について	(1) 懲罰規定について	①酒気帯び運転等の処分で甘いという批判があるが、懲罰の規定の変更はできないのか。 ②仕事上の積極的なトライから来るミスは、大いに許されるべきと思うが、社会通念上の犯罪的行為に関しては厳しくすべきと思うがいかがか。
13	長井 由喜雄 (一問一答方式)	1. 「インフルエンザ予防接種補助」の中学生までの拡大と、さらなる予防策について	(1) 健康づくり課が行なった「インフルエンザ予防接種調査結果」と今後の取り組みについて	①10月29日に、医師会学校保健研修会が開かれ、新潟大学大学院医歯学総合研究科国際保健学教室の齋藤玲子教授の講演を聞いた。この中で、燕市の健康づくり課が行った「インフルエンザ予防接種調査」結果の分析でインフルエンザ予防接種とインフルエンザ罹患の関係を「ワクチン効果」として紹介された。健康づくり課が取り組まれたアンケートの詳細とワクチン効果について伺う。 ②講演では燕市の例の他に、より詳細に調査がなされた長崎県諫早市の例も紹介された。私も、より詳しい調査は罹患と流行の低減に大きな効果をもたらしていくと感じた。 燕市においては今回の調査を財産として、調査の継続と詳細なデータを得る取り組みについての考えについてはいかがか。
			(2) 現在行なっている小学6年生までのインフルエンザ予防接種補助の中学生までの拡大について	①燕市が平成21年度から行なっている「子どもを対象とした季節性インフルエンザ予防接種費用の助成」は、生後6カ月から小学6年生までを対象としている。事業実施後の接種者数の推移はどうか。また、今回アンケートを実施した中で、接種者の率についてどう考えるか。 ②調査結果からも予防接種効果はあり、さらに接種率の拡大と、対象者の拡大により市の行なってきた補助事業が効果を増していくものと考えられる。現在は小学6年生までとしている対象を中学生までに拡大することは、ワクチン効果の結果からも有効・有益なことであり、最終的に医療費を抑えていくことにもつながるのではないか。補助対象を中学3年生までに拡大することを求めるがいかがか。

(次ページへ続く)

発言の順序	発する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
13	長井 由喜雄 (一問一答方式)	2. 学校における楽器整備の状況と「楽器バンク制度」について	(3) 小中学生、高齢者の日中の環境とインフルエンザ予防について	<p>①小中学生については、学校での罹患が最も多いとされる。子どもたちの接種状況は把握されるが、教職員の予防接種状況はどうか。また教室の湿度も、ウイルスに大きな影響を与えるとされる。教室における湿度管理も重要ではないか。その対応についてはどう考えているか。</p> <p>②高齢者施設では、利用者と職員のいずれもが8割以上予防接種を受けていると流行が抑えられるということだった。現在、65歳以上(一部60歳以上)には「高齢者予防接種」を実施しており、これらの施設での接種状況の把握と対応も必要と思う。現状はどうか伺う。</p>
14	タナカ・キン (一問一答方式)	1. 仲町駐車場について	(1) 耐震補強工事について	<p>①燕市は24年・25年度の2カ年で「夢を奏でる楽器整備事業」に取り組んで来たが、教育委員会としての効果と評価、学校側からの効果と評価についてはどうか。また、この事業について、現状はまだ不十分さが残ると思うが、今後についてはどのように考えているのか伺う。</p> <p>②幼稚園や小学校では夏祭りパレードで目にする楽器が主な対象であり、中学校では「吹奏楽」などの部活で使用される楽器がその主な対象となると思うが、必要とされる楽器が整っている現状にあるのか。同じ名前の楽器でも、中学校で使われる楽器は小学校のものと同等ではありえないし、種類も価格も違う。学校の楽器整備については、十分な配慮がされた事業であったのか。また事業外の例年の楽器整備については、どの程度予算化されていたのか伺う。</p> <p>①現実的には、楽器が足りないという声が出ている。市民の中には、現在は様々な事情で吹奏楽などでの演奏に堪えうる楽器が、家の中で眠っているという方もいるのではないかと。これらの方々に呼びかけ、児童生徒に楽器を提供してもいいという方を募る「楽器バンク制度」を、教育委員会が主体となって取り組んでいただきたいかがか。</p> <p>①仲町駐車場については、建物の耐震補強工事を速やかに実施することが民間に売却する際の条件であった。この夏、耐震補強工事が終わったのを確認したので、担当の生活環境課長に工事費について話を聞きに行ったところ、約1,800万円という答えが返ってきた。しかし、議会に対しては耐震診断の結果、耐震補強工事費は約1億2,500万円と説明をしていた。そうすると、金額があまりに違いすぎる。約1億2,500万円という数字の算出根拠について伺う。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発言者	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
14	タナカ・キン (一問一答方式)	2. 分水庁舎解体工事について	(1) 重油流出事故について	①11月5日の全員協議会での報告では、処理費用が約1,000万円という話だったが、全体の内容が説明不足であった。事故当時の状況、市に一報が入った時間など詳しく説明をしていただきたい。 ②重油の流出した原因は検証されているか。 ③処理費用が約1,000万円という話だが、全額市の負担になるのか。
			(2) 工事の入札について	①入札は6月6日に行なわれ、9社が参加したが不調に終わっている。不調の理由について伺う。
		3. 職員の不祥事について	(1) 無断欠勤が続いた職員について	①上司への相談やカウンセリングなどは受けていなかったか。
			(2) 処分について	①市長は職員の不祥事に対して、今後どのような態度や考えで臨んでいられるのか伺う。
15	齋藤紀美江 (一問一答方式)	1. 観光政策について	(1) 酒呑童子行列について	①酒呑童子行列は、Tシャツの作り変えやメイキャップなどで、参加する人の楽しみが増えて活性化してきていると思うがいかがか伺う。 ②来年度、10回目となる記念の年にもなる。新たな企画の考えはあるのか。 ③来ていただいた人に、記念になるお土産等の開発も必要だと思うがいかがか。 ④観光大使になっていただいたキラカーンさんに、主役の酒呑童子になっていただくことはできないか伺う。
			(2) 着地型観光の取り組みと地域の宝物について	①地域に根ざした観光として「まち歩き」や「工場見学」などの取り組みがある。その活動の中で発見された宝物はあるか伺う。 ②地域の宝物として、吉田諏訪神社の彫刻も見直されるべきものと思う。文化財としての価値もあると思うが、調査はされているのか伺う。
		2. 庁舎管理について	(1) 庁舎不具合の解消取り組みについて	①庁舎の不具合についての様々な指摘があったが、どこまで解消されたのか。案内カウンターを入り口から見えるところに置くべきと思うし、当初そのような説明があったと思うがどうか。その後、苦情や問い合わせなどはないのか伺う。

(次ページへ続く)

発言の順序	発する議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
15	齋藤紀美江 (一問一答方式)	3. 農業政策について	(1) 減反政策の見直しが発表され、今後の農業政策への取り組みについて	<p>①減反政策見直しの燕の農業者への影響はどうか伺う。</p> <p>②分水地域では、減減70などでの稲作も行われていると聞く。各地域での減減への取り組みはどうか。</p> <p>③畦道の緑化について、ヒメイワダレソウを進めて行く考えはあるかどうか。</p> <p>④農地の適正管理について、以前よりよく管理されているようだが、農業従事者の高齢化などによりままならないところも見受けられる。農業委員会として、モデル的にひまわりや菜の花など、見た目や環境などにより植物を植えるなどの管理ができないものか伺う。</p>
		4. 自治体及び事業者の社会責任について	(1) 入札に於ける総合評価方式の項目について	<p>①近年、自治体自らの社会責任も問われている。その考えの中で、入札制度においても参加事業者の社会責任の取り組み状況を評価に入れるところが増えてきている。燕市の総合評価方式の評価項目はどのようなのか。また、法令順守などの宣誓書なども含まれているのか伺う。</p>
16	阿部健二	1. 二元代表制と市政について	(1) 市政における議会の位置について	<p>①メディアシップでの日報論説委員の夏井さんの講演から、最近の自治体が二元代表制の一方である議会を蔑ろにする傾向は、多くの首長が議会経験のない落下傘候補であるからのように思えてくる。議会との話し合いには、二元代表制を前提とした意味合いが含まれていたと思うが、いかがか。</p> <p>②中央大学法学部の今村都南雄教授は、2006年7月に行われた『市民と議員の条例づくり交流会議2006』での基調報告の中で、「民主的な自治のしくみを構想する上で、長と議会のいずれが、より本質的な位置を占めるのかと言えば、それは議会の側ではないだろうか～」といい、さらには「民主的自治にとって、必ずしも公選の長は必要ない～との主張も、さほど危険な思想にはあたらない」とさえ言っているのである。今村教授の考え方を、どう思われるか。今のままの自治体と議会の関係では、燕市議会は「手続き民主主義」における手続きの一つとして片付けられてしまう恐れを感じるのだがいかがか。</p>
			(2) 議員より自治会長の意向を優先する謂れについて	<p>①9月議会で、二元代表制で運営されているはずの燕市が、議会より自治会協議会などの意向に偏重していることについてを問うた後の市長の二元代表制に対する考え方の真摯さは伺えるのだが、こと行政の場では相変わらずの対応が残っているように思えてならない。市が施策を立案する際、「議員より自治会長の意向を優先する」という何か法的根拠みたいなものがあるのかどうか。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発する議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
16	阿部健二			<p>②自治法などの解釈から、二代表制とは首長と議会が互いに案を出し合い、よりよい施策や制度を作りあげることが想定されており、議会にも首長とほぼ対等の権限が付与されていると考えられるのだが、この解釈に、間違いはないと思うがいかがか。</p> <p>また市が、一方的に議案を作成し、それを修正なしに議決を迫る今の市のやり方は正さなければならないと思うがいかがか伺う。</p>
		2. 行政視察について	(1) 常任委員会の視察から学んだことについて	<p>①今回の市民厚生常任委員会の行政視察での最たる目玉は、いま健康長寿のマチ、PKのマチ、「世界最高の健康都市」として名高い長野県佐久市で、そこに若月俊一先生が地域医療の核として作り上げたJA長野厚生連佐久総合病院を訪ねることであった。</p> <p>まずの驚きは、今でも若月先生を慕う病院の職員さんたちから先生の作った「農村巡回検診隊のうた」が歌われ続け、病気治療が目的のはずの病院で『佐久総合病院の5：3：2方式』が唱えられ「予防は治療に勝る！」に取り組まれていることである。</p> <p>診療部署を持たない自治体が、佐久総合病院そのままを真似ることはできないにしても、「予防は治療に勝る！」は学べるはずである。</p> <p>ところで、『佐久総合病院の5：3：2方式』をご存じだろうか。</p> <p>いまの燕市の保健医療の体制では、佐久市のように住民・患者が地域医療の主役には、なれないのだろうか伺う。</p>
			(2) 会派の行政視察から得たことについて	<p>①鴻鵠クラブに同行しての行政視察は、山形県南陽市での「南陽ブランド推進」と福島県二本松市の「がんばろう二本松産業振興協議会」と栃木県矢板市の教育委員会が発信する“矢板武塾”を核とする「まちづくり」で、ことに、近い所でも“福島第一原発”から50kmも離れている二本松市が、原発事故による風評被害の甚大だったことに驚かされた。</p> <p>最近、柏崎原発の再稼働への動きが活発化する中、燕市全体は、30km圏外だからと安心し切っていないか伺う。</p> <p>②矢板市の教育委員会（生涯学習課）が、「まちづくり」に取り組んでいることを、燕市の教育委員会としてはどう受け止められるか伺う。</p>

発言の順序	発言者	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
17	大岩 勉 (一問一答方式)	1. 平成 25 年度施政方針の取り組みと状況について	(1) 新庁舎移転開庁による発展するための礎をつくりあげる市政運営について	①国道 116 号線バイパス実現のため、市役所周辺一帯を土地区画整理事業とし考えたかどうか。 ②イメージアップ推進事業を掲げられましたが、進捗状況を伺う。 ③鈴木市政 4 年間は、「深謀遠慮」な政治運営だったと思われるか伺う。 ④二期目への意欲を伺う。市長はデザイナーであれ、芸術家であれと思うがいかがか。
		2. まちづくり協議会について	(1) 支援事業の見直しについて	①活動内容が、公民館事業と重複している内容が多いのではないかと。 ②支援事業補助金を消化するためだけの事業計画が多いのではないかと。
		3. 学校教育について	(1) 高齢者の事故防止協力運動について	①自転車を運転する高齢者の交通事故を減らすために、自転車用ヘルメットを祖父母に贈る運動をしたかどうか。
			(2) ふれジョブ活動について	①小学生以上の障害がある子どもたちが、地元の会社や商店で働く活動で職場体験を通じて住民と相互理解を深め、共に生きる社会を築く試みを行うべきでないか。
			(3) 不登校生に自信を与える教室について	①教室に入れない生徒に「自然観察」や「実験装置製作」などを通じ、生き抜く力を身に着ける教育で生徒のやる気や自信につなげたらどうか。